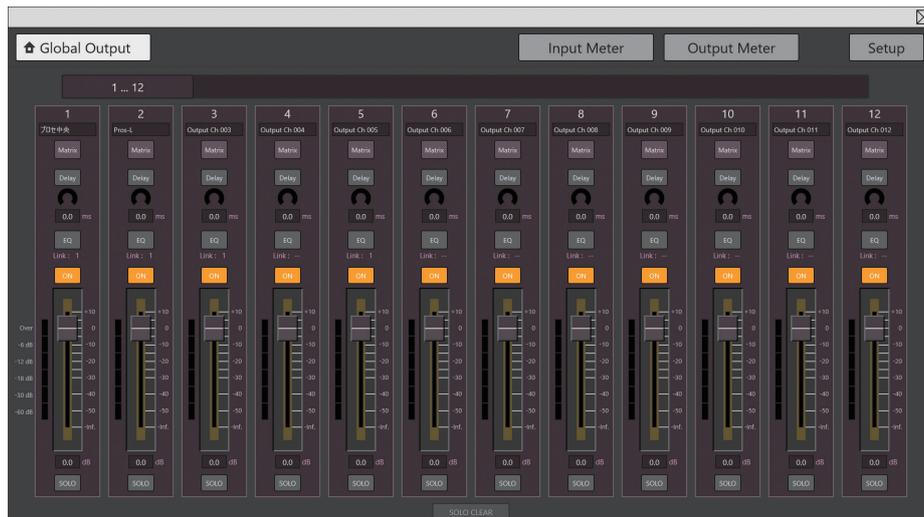


HYfAX SERIES

# SK-LDM1-Remote

マトリクスコントローラー LDM1 リモートキット

## 使用説明書



ヤマハサウンドシステム株式会社

● 商標について

本書に記載されている社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

# 使用上のご注意

本製品は、次のことに注意してご使用ください。

- 保証について

不適切な使用により故障した場合の保証はいたしかねます。

## 本書の記載について

本書で使用している記号やマークの意味について説明します。

マーク・記号	説明
	機能やご使用手順に関する補足事項を示しています。
[ ]	画面に表示されるメニュー名称やボタン名称を示しています。

# 目次

<b>使用上のご注意</b> .....	<b>1</b>
<b>本書の記載について</b> .....	<b>1</b>
<b>目次</b> .....	<b>2</b>
<b>1 はじめに</b> .....	<b>3</b>
本書について.....	3
マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットの概要.....	3
機器（ハードウェア）について.....	3
ライセンスについて.....	4
ソフトウェアの起動と終了.....	4
マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットを起動する.....	4
マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットを終了する.....	4
<b>2 基本操作</b> .....	<b>5</b>
画面での操作.....	5
主なユーザーインターフェース.....	5
タップとスライド.....	5
NumPad.....	5
<b>3 各画面の説明と操作方法</b> .....	<b>6</b>
Global Output 画面.....	6
アウトプットチャンネルの設定を変更する.....	7
EQ 機能（イコライザー）を設定する（EQ 画面）.....	8
インプットチャンネルの設定を変更する（Matrix 画面）.....	10
Input Meter 画面.....	12
Output Meter 画面.....	13
Setup 画面.....	14
<b>4 付録</b> .....	<b>15</b>
こんなときには.....	15
仕様.....	16
各機能のパラメーター.....	16
マトリクスコントローラー LDM1 リモートキット動作環境.....	17

# 1 はじめに

本ソフトウェアを正しくお使いいただくために、この使用説明書をご使用の前に必ずお読みください。お読みになったあとも大切に保管してください。

## 本書について

本書では、マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットの操作方法を説明します。

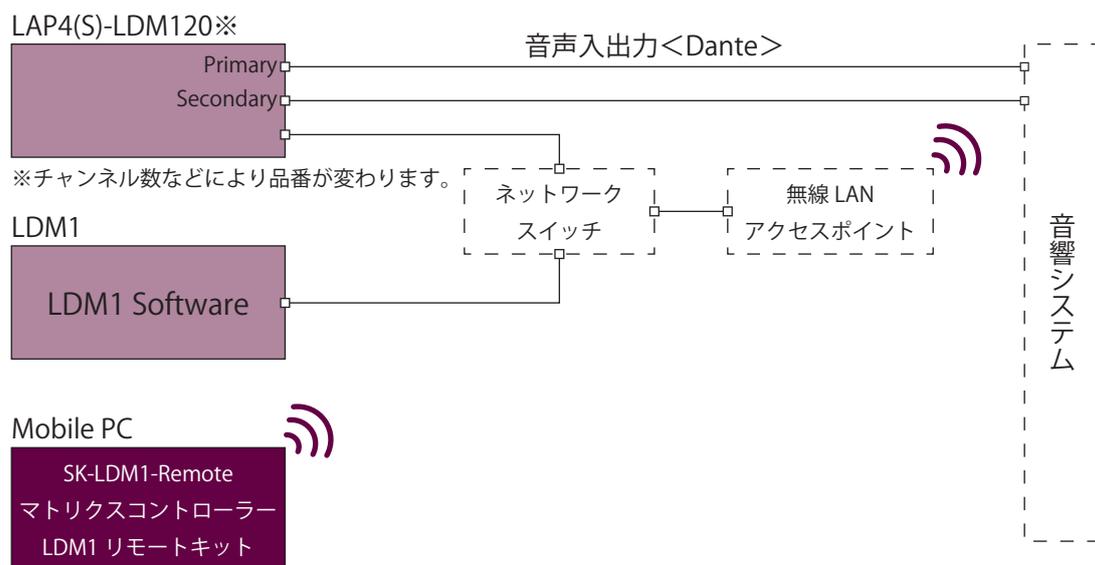
## マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットの概要

マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットは、マトリクスコントローラー LDM1（本体）を制御するソフトウェアです。

LDM1 が制御する入力チャンネルおよび出力チャンネルの信号レベルや ON/OFF を制御します。

### ■ 機器（ハードウェア）について

マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットシステムの機器の構成を次の図に示します。



## 1

## ライセンスについて

---

購入したライセンス数以上の同時接続はできません。

## ソフトウェアの起動と終了

---

マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットの起動と終了方法を説明します。

### ■ マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットを起動する

- 1 マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットがインストールされている PC を起動します。
- 2 スタートメニュー→ [LDM1Remote] を選択、またはデスクトップのマトリクスコントローラー LDM1 リモートキットのアイコンをダブルタップします。  
マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットが起動します。

### ■ マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットを終了する

- 1 画面右上のをタップします。
- 2 [はい] をタップします。  
マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットが終了します。

## 2 基本操作

マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットの基本操作を説明します。

### 画面での操作

タッチパネル機能を使用する画面での操作方法について説明します。操作方法や機能は各画面表示によって異なります。

#### ■ 主なユーザーインターフェース

画面に表示される主なユーザーインターフェースについて説明します。

##### ボタン

画面に表示されるボタンを使用して LDM1 の設定を操作できます。表示中の画面によって機能が異なります。

各ボタンの詳細については p.6 の「3 各画面の説明と操作方法」をご参照ください。

##### インジケータ

各フィールドのレベル設定の値や EQ 機能、DELAY 機能の設定項目の値はインジケータに表示されます。インジケータの最大値と最小値は設定項目によって異なります。



##### ボックス

パラメーターの設定値やインプットチャンネル、アウトプットチャンネルの名前が表示される欄を「ボックス」と呼びます。設定可能なボックスをタップまたはダブルタップすると編集できます。値は NumPad を使用して入力します。



#### ■ タップとスライド

画面でのタップとスライドの操作方法について説明します。

操作	操作方法
タップ	画面に表示されるボタンやボックスなどを押して、指を離すことを「タップする」と呼びます。タップした箇所の設定の変更が可能になります。
ダブルタップ	短時間に2回タップすることを「ダブルタップする」と呼びます。ボタンの ON/OFF の切り替えや、ボックスの編集ができます。
スライド	画面に表示されるボタン、フェーダーやバーを押したあと、画面から指を離さずに移動することを「スライドする」と呼びます。

#### ■ NumPad

パラメーターのボックスをタップまたはダブルタップすると表示されます。

数値ボタン、または  ボタンをタップして、値を入力できます。[Enter] ボタンをタップすると、値が確定します。

 ボタンをタップしたときの値の増減値は Setup 画面で設定できます。p.14 の「Setup 画面」をご参照ください。



## 3 各画面の説明と操作方法

各画面の説明と操作方法について説明します。

### Global Output 画面

Global Output 画面の各部名称と操作方法について説明します。  
Global Output 画面は、起動後に表示される画面です。12チャンネルごとにアウトプットチャンネルを表示し、レベル調整や ON/OFF の切り替えなどを設定できます。



- 1** チャンネルバー  
Global Output 画面に表示するチャンネルを 12チャンネルごとに切り替えます。  
チャンネルバーを左右にスライドすると表示されていないアウトプットチャンネルを表示できます。アウトプットチャンネル数は、接続しているマトリクスコントローラー LDM1 のチャンネル数によって変わります。(詳細は p.16 の「各機能のパラメーター」をご参照ください。)
- 2** チャンネル表示  
アウトプットのチャンネル番号を表示します。
- 3** アウトプットチャンネル名  
アウトプットチャンネルの名前を表示します。
- 4** [Matrix] ボタン  
タップすると、Matrix 画面が表示されます。Matrix 画面については、p.10 の「インプットチャンネルの設定を変更する (Matrix 画面)」をご参照ください。  
アウトプットチャンネルに対応するインプットチャンネルの設定ができます。
- 5** [Delay] ボタン  
タップすると、アウトプットチャンネルの Delay の ON/OFF が切り替わります。Delay 機能が ON のとき [Delay] ボタンは白色で表示されます。
- 6** Delay Time インジケーター  
アウトプットチャンネルの Delay Time をインジケーターで表示します。
- 7** Delay Time 表示  
アウトプットチャンネルの Delay Time を表示します。ダブルタップして表示される NumPad で Delay Time の値を設定できます。
- 8** [EQ] ボタン  
タップすると、EQ 画面を表示します。EQ 画面については、p.8 の「EQ 機能 (イコライザー) を設定する (EQ 画面)」をご参照ください。  
EQ 機能が ON のとき [EQ] ボタンは白色で表示されます。  
[EQ] ボタンの下にアウトプットチャンネルに設定されている EQ Link グループ番号を表示します。

9 [ON] ボタン

アウトプットチャンネルの ON/OFF を切り替えます。アウトプットチャンネルが ON のとき [ON] ボタンはオレンジ色で表示されます。

10 Output Meter

アウトプットチャンネルの信号の大きさをインジケータで表示します。

信号の大きさによって次の色で表示します。

- Over : 赤色
- -18 dB 以上 : 黄色
- -18 dB 未満 : 緑色



11 アウトプットレベル

アウトプットチャンネルのレベルを調整します。フェーダーを上下に動かして調整、またはアウトプットレベルのボックスをダブルタップして表示される NumPad で数値入力することもできます。

12 [SOLO] ボタン

SOLO 機能の ON/OFF を切り替えます。SOLO 機能が ON のとき [ON] ボタンは赤色で表示されます。

13 [SOLO CLEAR] ボタン

タップすると、インプットチャンネルとアウトプットチャンネルの SOLO 機能を一括で OFF にします。SOLO 機能が ON のチャンネルが 1 つ以上あるときは、[SOLO CLEAR] ボタンは赤色で表示されます。

14 [Input Meter] ボタン

Input Meter 画面を表示します。  
p.12 の「Input Meter 画面」をご参照ください。

15 [Output Meter] ボタン

Output Meter 画面を表示します。  
p.13 の「Output Meter 画面」をご参照ください。

16 [Setup] ボタン

Setup 画面を表示します。  
p.14 の「Setup 画面」をご参照ください。

■ アウトプットチャンネルの設定を変更する

設定するアウトプットチャンネルを表示する

- 1 設定するアウトプットチャンネルが表示されるまで、チャンネルバーをスライドします。アウトプットチャンネルの表示が切り替わります。

アウトプットチャンネルのレベルを変更する

- 1 設定するアウトプットチャンネルのアウトプットレベルのボックスをダブルタップします。
- 2 NumPad でアウトプットレベルを入力します。



- 設定範囲は「-∞ ~ +10.0」です。
- フェーダーを上下に動かしてアウトプットチャンネルのレベルを設定することもできます。

3 [Enter] ボタンをタップします。

アウトプットチャンネルの DELAY 機能を使用する

DELAY 機能を使用すると、アウトプットチャンネルで再生する時間を遅らせることができます。

- 1 設定するアウトプットチャンネルの Delay Time 表示ボックスをダブルタップします。
- 2 NumPad で Delay Time を入力します。



- 設定範囲は「0 ~ 1000 mSec」です。
- Delay Time の単位は、ms、メートル、尺、間から選択できます。

3 [Enter] ボタンをタップします。

- 4 [Delay] ボタンをタップして、Delay 機能を ON にします。

アウトプットチャンネルの EQ 機能を使用する

- 1 設定するアウトプットチャンネルの [EQ] ボタンをタップします。
- 2 表示される EQ 画面で EQ 機能を設定します。EQ 画面での設定内容については、p.8 の「EQ 機能 (イコライザー) を設定する (EQ 画面)」をご参照ください。

アウトプットチャンネルの出力を確認する

SOLO 機能を使用して、アウトプットチャンネルの出力を確認します。

- 1 出力を確認するアウトプットチャンネルの [SOLO] ボタンをタップして、SOLO 機能を ON にします。
- 2 SOLO 機能が ON になっているアウトプットチャンネルから音声が出力されているか確認します。
- 3 [SOLO CLEAR] ボタンをタップして、すべてのアウトプットチャンネルの SOLO 機能を OFF にします。

アウトプットチャンネルの ON/OFF を切り替える

- 1 設定するアウトプットチャンネルの [ON] ボタンをタップして、ON/OFF を切り替えます。

## ■ EQ 機能（イコライザー）を設定する（EQ 画面）

EQ 画面では、特定の周波数の信号を増減するフィルターを設定できます。各アウトプットチャンネルに最大 8 つのフィルターを設定できます。

フィルターには次のタイプがあります。両端のフィルター以外は PEQ タイプだけを設定できます。

タイプ	説明
PEQ（パラメトリックイコライザー）	特定の周波数（Frequency）近辺の信号を増減します。
LSF1（ローシェルフフィルター）	特定の周波数（Frequency）より低い周波数の信号を増減します。
LSF2（ローシェルフフィルター）	特定の周波数（Frequency）より低い周波数の信号を増減します。 LSF1 より EQ カーブの変化の割合が大きくなります。
HSF1（ハイシェルフフィルター）	特定の周波数（Frequency）より高い周波数の信号を増減します。
HSF2（ハイシェルフフィルター）	特定の周波数（Frequency）より高い周波数の信号を増減します。 HSF1 より EQ カーブの変化の割合が大きくなります。
HPF（ハイパスフィルター）	カットオフ周波数（Frequency）より低い周波数の信号をカットします。
HPF2（ハイパスフィルター）	カットオフ周波数（Frequency）より低い周波数の信号をカットします。 HPF より EQ カーブの変化の割合が大きくなります。
LPF（ローパスフィルター）	カットオフ周波数（Frequency）より高い周波数の信号をカットします。
LPF2（ローパスフィルター）	カットオフ周波数（Frequency）より高い周波数の信号をカットします。 LPF より EQ カーブの変化の割合が大きくなります。

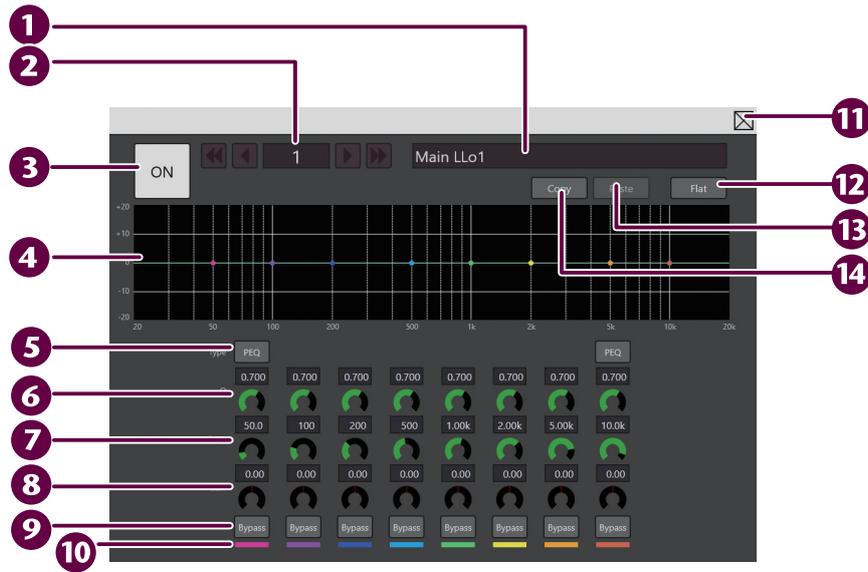
フィルターによる信号の増減は、周波数特性グラフで確認できます。

周波数特性は次のパラメーターによって決定します。

パラメーター	設定できるタイプ	説明
Q	PEQ/HPF2/LSF2/LPF2/HSF2	周波数特性の変化を表すパラメーターです。設定可能範囲は「0.100 ～ 16.000」です。Qの値が小さいほど周波数特性の変化の割合が大きくなります。
Frequency	PEQ	フィルターによる信号の増減の中心周波数です。EQ カーブの頂点です。
	LSF1/LSF2/HSF1/HSF2	フィルターのカットオフ周波数です。
	HPF/HPF2/LPF/LPF2	フィルターのカットオフ周波数です。
Gain	PEQ/LSF1/LSF2/HSF1/HSF2	信号の増減の大きさを表すパラメーターです。設定可能範囲は「- 18 dB ～ 18 dB」です。EQ カーブの縦軸に表示されます。

バイパス機能が ON になっているフィルターは周波数特性グラフに表示されません。周波数特性グラフには、バイパスされていないすべてのフィルターによる信号の増減を統合したグラフが表示されます。

## EQ 画面の各部名称とはたらき



- 1** アウトプットチャンネル名  
選択中のアウトプットチャンネルの名前です。
- 2** アウトプットチャンネル表示  
選択中のアウトプットのチャンネル番号を表示します。  
◀◀ ▶▶ ボタンをタップすると、選択中のアウトプットチャンネルを切り替えることができます。
- 3** [ON] ボタン  
EQ 機能の ON/OFF を切り替えます。EQ 機能が ON のとき [ON] ボタンは白色で表示されます。
- 4** 周波数特性グラフ  
フィルターによる信号の増減を表示します。フィルターの中心周波数に表示されるコントロールポイントをスライドして座標を移動することで Frequency および Gain の設定値を変更できます。
- 5** Type  
イコライザーのタイプを選択します。  
両端のイコライザーのタイプは [PEQ] / [HPF] / [HPF2] / [LSF1] / [LSF2] / [LPF] / [LPF2] / [HSF1] / [HSF2] から選択します。その他のイコライザーのタイプは PEQ だけです。
- 6** Q  
各周波数帯域幅を設定します。設定範囲は「0.100 ~ 16.000」です。設定値は数値とインジケータで表示します。[PEQ] / [HPF2] / [LSF2] / [LPF2] / [HSF2] を選択しているときに表示されます。
- 7** Frequency  
フィルターの中心周波数です。PEQ 選択時は、EQ カーブの頂点です。設定範囲は「20 Hz ~ 20 kHz」です。設定値は数値とインジケータで表示します。
- 8** Gain  
信号の増減の大きさを表すパラメーターです。設定範囲は「- 18.00 dB ~ 18.00 dB」です。設定値は数値とインジケータで表示します。[HPF] / [HPF2] / [LPF] / [LPF2] を選択しているときは表示されません。
- 9** [Bypass] ボタン  
各フィルターのバイパス機能の ON/OFF を切り替えます。バイパス機能が ON のとき [Bypass] ボタンはオレンジ色で、OFF のときはグレーで表示されます。  
バイパス機能が ON のフィルターは、信号の増減に影響を与えません。フィルターを設定するときは [Bypass] ボタンを OFF にしてください。
- 10** フィルターカラー  
各フィルターのフィルターカラーを示します。周波数特性グラフには、Frequency と Gain で設定されている座標にフィルターカラーと同じ色のコントロールポイントが表示されます。
- 11** ☒ ボタン  
EQ 画面を閉じます。
- 12** [Flat] ボタン  
すべての Gain を「0.00 dB」に設定します。
- 13** [Paste] ボタン  
表示中のアウトプットチャンネルに直前にコピーした EQ 設定内容を適用します。
- 14** [Copy] ボタン  
表示中のアウトプットチャンネルの EQ 設定内容をコピーします。

## ■ インputチャンネルの設定を変更する (Matrix 画面)

Matrix 画面では、アウトプットチャンネルに対応するインputチャンネルのレベルや Delay、SOLO 機能を設定します。

Matrix 画面の各部名称とはたらき



- 1** ボタン  
タップすると、Global Output 画面に戻ります。
- 2** アウトプットチャンネル表示  
アウトプットのチャンネル番号を表示します。  
 ボタンをタップすると、選択中のアウトプットチャンネルを切り替えることができます。
- 3** アウトプットチャンネル名  
アウトプットチャンネルの名前を表示します。
- 4** インputチャンネル表示  
インputのチャンネル番号を表示します。
- 5** インputチャンネル名  
インputチャンネルの名前を表示します。
- 6** Input Meter  
インputチャンネルの信号の大きさをインジケータで表示します。  
信号の大きさによって次の色で表示します。
  - ・ Over : 赤色
  - ・ -18 dB 以上 : 黄色
  - ・ -18 dB 未満 : 緑色
- 7** Delay Time インジケータ  
インputチャンネルの Delay Time をインジケータで表示します。
- 8** [Delay] ボタン  
タップすると、インputチャンネルの Delay の ON/OFF が切り替わります。Delay 機能が ON のとき [Delay] ボタンは白色で表示されます。
- 9** Delay Time 表示  
インputチャンネルの Delay Time を表示します。ダブルタップして表示される NumPad で Delay Time の値を設定できます。
- 10** [ON] ボタン  
インputチャンネルの ON/OFF を切り替えます。インputチャンネルが ON のとき [ON] ボタンはオレンジ色で表示されます。
- 11** インputチャンネルレベル  
インputチャンネルのレベルを表示します。インputチャンネルのレベルのボックスをダブルタップして表示される NumPad で数値を入力できます。
- 12** [SOLO] ボタン  
SOLO 機能の ON/OFF を切り替えます。SOLO 機能が ON のとき [ON] ボタンは赤色で表示されます。

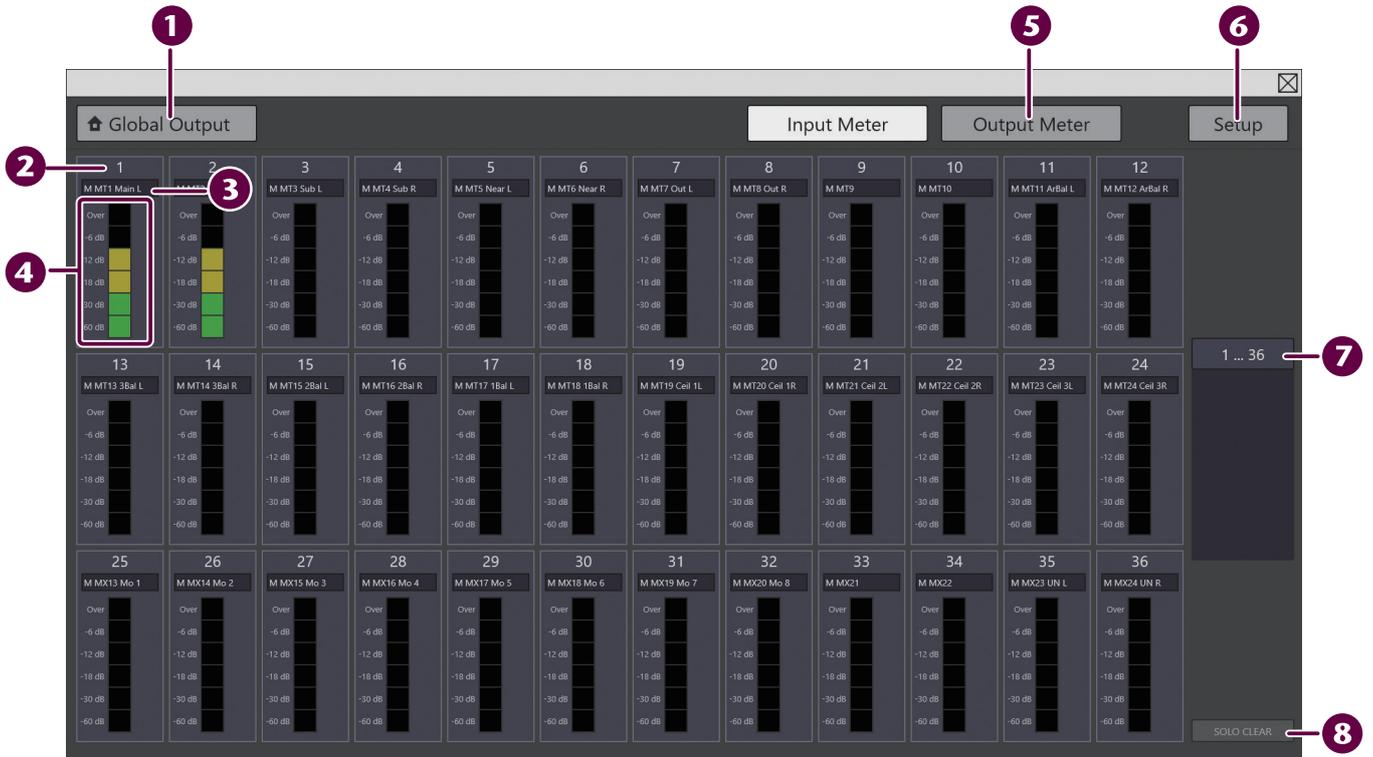




## Input Meter 画面

Input Meter 画面の各部名称と操作方法について説明します。

Input Meter 画面では、36 チャンネルごとにインプットチャンネルのメーターを確認できます。



**1** [Global Output] ボタン  
Global Output 画面を表示します。  
p.6 の「Global Output 画面」をご参照ください。

**2** インプットチャンネル表示  
インプットのチャンネル番号を表示します。

**3** インプットチャンネル名  
インプットチャンネルの名前を表示します。

**4** Input Meter  
インプットチャンネルの信号の大きさをインジケータで表示します。  
信号の大きさによって次の色で表示します。

- Over : 赤色
- -18 dB 以上 : 黄色
- -18 dB 未満 : 緑色



**5** [Output Meter] ボタン  
Output Meter 画面を表示します。  
p.13 の「Output Meter 画面」をご参照ください。

**6** [Setup] ボタン  
Setup 画面を表示します。  
p.14 の「Setup 画面」をご参照ください。

**7** チャンネルバー  
Input Meter 画面に表示するチャンネルを 36 チャンネルごとに切り替えます。  
Input Meter 画面に表示するインプットチャンネルが表示される位置までチャンネルバーをスライドします。

表示するチャンネル数は、接続しているマトリクスコントローラー LDM1 のチャンネル数によって変わります。(詳細は p.16 の「各機能のパラメータ」をご参照ください。)

**8** [SOLO CLEAR] ボタン  
タップすると、インプットチャンネルとアウトプットチャンネルの SOLO 機能を一括で OFF にします。SOLO 機能が ON のチャンネルが 1 つ以上あるときは、[SOLO CLEAR] ボタンは赤色で表示されます。

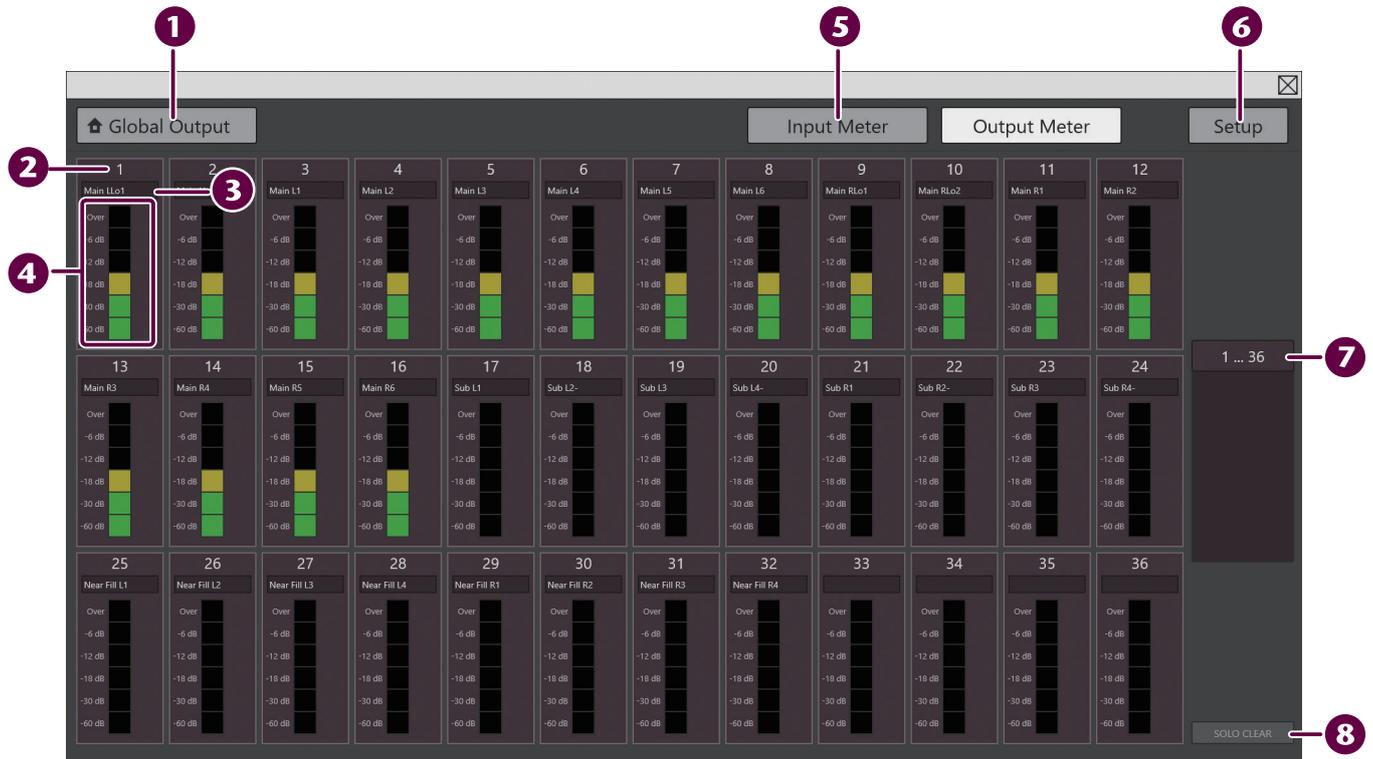
Input Meter 画面に表示するチャンネルを切り替える

**1** チャンネルバーをスライドして、表示したいチャンネルの範囲まで移動します。  
選択した範囲のインプットチャンネルのメーターが表示されます。

## Output Meter 画面

Output Meter 画面の各部名称と操作方法について説明します。

Output Meter 画面では、36 チャンネルごとにアウトプットチャンネルのメーターを確認できます。



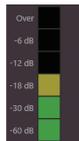
**1** [Global Output] ボタン  
Global Output 画面を表示します。  
p.6 の「Global Output 画面」をご参照ください。

**2** アウトプットチャンネル表示  
アウトプットのチャンネル番号を表示します。

**3** アウトプットチャンネル名  
アウトプットチャンネルの名前を表示します。

**4** Output Meter  
アウトプットチャンネルの信号の大きさをインジケータで表示します。  
信号の大きさによって次の色で表示します。

- Over : 赤色
- -18 dB 以上 : 黄色
- -18 dB 未満 : 緑色



**5** [Input Meter] ボタン  
Input Meter 画面を表示します。  
p.12 の「Input Meter 画面」をご参照ください。

**6** [Setup] ボタン  
Setup 画面を表示します。  
p.14 の「Setup 画面」をご参照ください。

**7** チャンネルバー  
Output Meter 画面に表示するチャンネルを 36 チャンネルごとに切り替えます。  
Output Meter 画面に表示するアウトプットチャンネルが表示される位置までチャンネルバーをスライドします。

表示するチャンネル数は、接続しているマトリクスコントローラー LDM1 のチャンネル数によって変わります。(詳細は p.16 の「各機能のパラメーター」をご参照ください。)

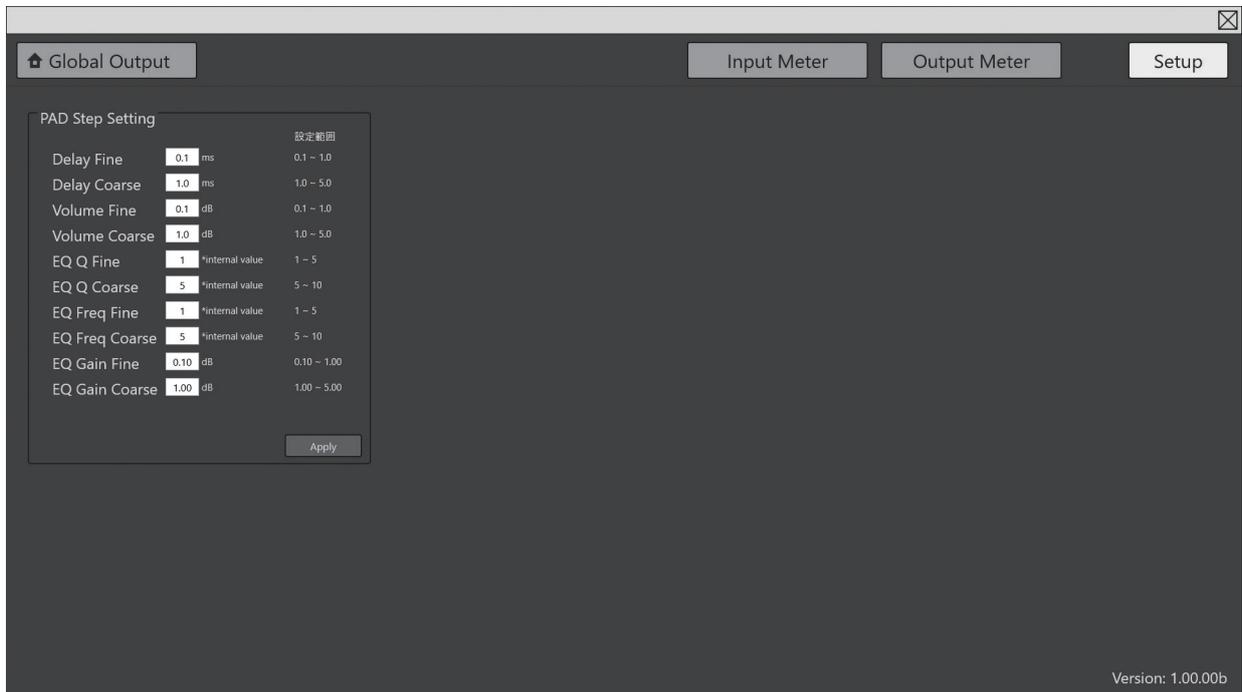
**8** [SOLO CLEAR] ボタン  
タップすると、インプットチャンネルとアウトプットチャンネルの SOLO 機能を一括で OFF にします。SOLO 機能が ON のチャンネルが 1 つ以上あるときは、[SOLO CLEAR] ボタンは赤色で表示されます。

Output Meter 画面に表示するチャンネルを切り替える

**1** チャンネルバーをスライドして、表示したいチャンネルの範囲まで移動します。  
選択した範囲のアウトプットチャンネルのメーターが表示されます。

## Setup 画面

NumPad の   ボタンをタップしたときの値の増減値を設定します。



各設定項目の概要は以下のとおりです。

設定項目	内容
Delay Fine	Delay Time 表示の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
Delay Coarse	Delay Time 表示の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
Volume Fine	チャンネルレベルの NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
Volume Coarse	チャンネルレベルの NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
EQ Q Fine	EQ 画面の Q の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
EQ Q Coarse	EQ 画面の Q の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
EQ Freq Fine	EQ 画面の Frequency の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
EQ Freq Coarse	EQ 画面の Frequency の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
EQ Gain Fine	EQ 画面の Gain の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。
EQ Gain Coarse	EQ 画面の Gain の NumPad で   をタップしたときの値の増減値です。

### 設定を変更する

- 1 設定を変更する項目のボックスをダブルタップします。
- 2 表示される   をタップして、値を指定します。
- 3 [Apply] ボタンをタップします。  
設定の変更が反映されます。

## 4 付録

困ったときの対処方法およびマトリクスコントローラー LDM1 リモートキットの各機能の仕様について説明します。

### こんなときには

故障かな?と思ったときは次の対処方法にしてみてください。

状態	原因	対処方法
通信エラーのポップアップ画面が表示される。 	LDM1 とのケーブルの接続または通信が遮断されています。  LDM1 の電源が入っていません。	マトリクスコントローラー LDM1 リモートキットと LDM1 とのネットワークケーブルが正しく接続されているか、無線で接続している場合は、無線 LAN の設定状況をご確認ください。  LDM1 を起動してください。
通信エラーのポップアップ画面が表示される。 	LDM1 と LAP4(S)-LDM120 ※が正しく接続されていません。  LDM1 と LAP4(S)-LDM120 ※が Off-line です。	LDM1 と LAP4(S)-LDM120 ※間のコントロール線が接続されているか、通信用 LAN スイッチがある場合は接続と通信状況をご確認ください。  LDM1 と LAP4(S)-LDM120 ※を On-line に設定してください。
通信エラーのポップアップ画面が表示される。 	アクティベーションしているライセンスで LDM1 に接続できる PC 数の上限を超えました。	購入したライセンス数以上の同時接続はできません。接続済みのマトリクスコントローラー LDM1 リモートキットを終了してください。

※チャンネル数などにより品番が変わります。

上記の対処方法でも解決しないときは担当営業にお問い合わせください。

## 仕様

### ■ 各機能のパラメーター

各機能で表示、設定されるパラメーターの仕様一覧です。

パラメーター		設定	機能
インプットチャンネル			
インプットチャンネル数		1 ~ 72 ch	インプットチャンネル番号 (LAP4(S)-LDM72 の場合)
		1 ~ 120 ch	インプットチャンネル番号 (LAP4(S)-LDM120、LAP4-LDM240 の場合)
Input Meter		6 段階 ( - 60 dB、 - 30 dB、 - 18 dB、 - 12 dB、 - 6 dB、 Over) インジケーターカラー：緑、黄、赤	インプットチャンネルの信号の大きさ
SOLO		ON/OFF	インプットチャンネルの SOLO ON/OFF
アウトプットチャンネル			
アウトプットチャンネル数		1 ~ 72 ch	アウトプットチャンネル番号 (LAP4(S)-LDM72 の場合)
		1 ~ 120 ch	アウトプットチャンネル番号 (LAP4(S)-LDM120 の場合)
		1 ~ 240 ch	アウトプットチャンネル番号 (LAP4(S)-LDM240 の場合)
ON		ON/OFF	アウトプットチャンネルの ON/OFF
アウトプットレベル		-∞ ~ +10.00 dB ※	アウトプットチャンネルの出力レベル
DELAY ON		ON/OFF	アウトプットチャンネルの DELAY ON/OFF
DELAY		0 ~ 1000 mSec (0.1 mSec 単位)	アウトプットチャンネルの DELAY 時間
Output Meter		6 段階 ( - 60 dB、 - 30 dB、 - 18 dB、 - 12 dB、 - 6 dB、 Over) インジケーターカラー：緑、黄、赤	アウトプットチャンネルの信号の大きさ
EQ Link		1 ~ 20	アウトプットチャンネルの EQ Link グループ番号
EQ	ON	ON/OFF	EQ 機能の ON/OFF
	周波数特性グラフ	周波数 (横軸)：20 Hz ~ 20 kHz ゲイン (縦軸)：- 20 dB ~ 20 dB コントロールポイントカラー：桃、紫、青、水色、黄緑、黄、山吹色、橙	EQ 機能による信号の増減表示
	Type	PEQ、LSF1、LSF2、HSF1、HSF2、HPF、HPF2、LPF、LPF2	EQ 機能のフィルターのタイプ
	Q	PEQ、HPF、HPF2、LPF、LPF2：0.100 ~ 16.000 ※	曲線の傾き
	Frequency	20 Hz ~ 20 kHz ※	曲線の中心周波数
	Gain	- 18 dB ~ 18 dB ※	信号の増減量
Matrix			
ON		ON/OFF	インプットチャンネルの ON/OFF
インプットレベル		-∞ ~ +10.00 dB ※	インプットチャンネルの入力レベル
DELAY ON		ON/OFF	インプットチャンネルの DELAY ON/OFF
DELAY		0 ~ 1000 mSec (0.1 mSec 単位)	インプットチャンネルの DELAY 時間

※設定可能範囲外の値を入力した場合、設定可能範囲内で最も近い値に自動的に修正されます。また、設定可能範囲内でも無効な桁数の値を入力した場合、値は自動的に切り捨てあるいは切り上げられて修正されます。有効な桁数は設定値によって異なります。

## ■ マトリクスコントローラー LDM1 リモートキット動作環境

OS	Windows 10 Pro、Windows 11 Pro
CPU	Intel® Core™ i5 以上
メモリー	8 GB 以上
ハードディスク空き容量	100 MB 以上
ディスプレイ	1920 × 1080 (Full HD) タッチパネル推奨
その他	100BASE-T 以上の Ethernet アダプター、または Wi-Fi が搭載されていること

● **著作権について**

このソフトウェアおよび使用説明書の著作権はヤマハサウンドシステム株式会社が所有します。

Copyright©2021 Yamaha Sound Systems Inc. All rights reserved.

ヤマハサウンドシステムホームページ <https://www.yamaha-ss.co.jp/>

2023年2月改訂